

心に伝わるやさしい気持ち

小 五

わたしには、生きていたら百才になる、大好きなひいおばあちゃんがいました。ひいおばあちゃんは「にん知しよう」という病気で、わたしが生まれる前からずっと病院にいました。ひいおばあちゃんは、わたしやわたしの家族に何度会っても、だれだかわすれてしまいます。また、自分の名前もいつもちがう名前を言っていました。でも、わたしが会いに行くと、いつもにこにこ笑顔で喜んでくれるので、わたしはひいおばあちゃんが大好きでした。

ある日、ひいおばあちゃんに会いに行くと、お世話をしてくれるヘルパーさんがい

ました。ひいおばあちゃんはいつものように、

「あなただれだっけ？」

とにこにことわたしに聞いてきました。すると、そのヘルパーさんが、

「何を言ってるの。ひ孫さんでしょ。何度言ってもおかしなことばかり言って。

ひ孫さんに笑われちゃうよ。」

と笑いました。わたしはそのとき、なんだかとても悲しい気持ちになりました。確かにひいおばあちゃんは、いつもわすれてしまいうし、何度も同じことを言います。でもひいおばあちゃんは、わたしが学校で習った歌を聞かせると、とても楽しそうにしてくれるし、ひいおばあちゃんの大好きなあめ玉をこっそりあげると、まるで子どものようにおいしそうに食べてくれます。そんな大好きなひいおばあちゃんをばかにさ

れたようで、思わずなみだが出ました。

お母さんに気持ちを話すと、お母さんが、
「とつてもやさしいなみだね。きつとその
やさしい気持ちは、ひいおばあちゃんに
伝わっているし、わすれてなんかいない
と思うよ。」
わたしは、わたしのお母さん、
わたしのおばあちゃんへの大好きな
気持ちも、きつと伝わっていたと思っ
ています。

と言ってくれました。わたしはそのお母さん
の言葉を聞いて、ほっとして温かい気持ち
になりました。きつとひいおばあちゃん
は、心の中でいつもわたしの名前をよんで
くれていたし、わたしたちが会いに来るの
を、楽しみにしてくれていたのではないか
と思います。なぜなら、わたしの思い出す
ひいおばあちゃんは、いつもにこにこ笑顔
だったからです。

声に出して言われたことはなかったけ
れど、わたしには今もひいおばあちゃんの
やさしい気持ちが伝わってきます。そして、